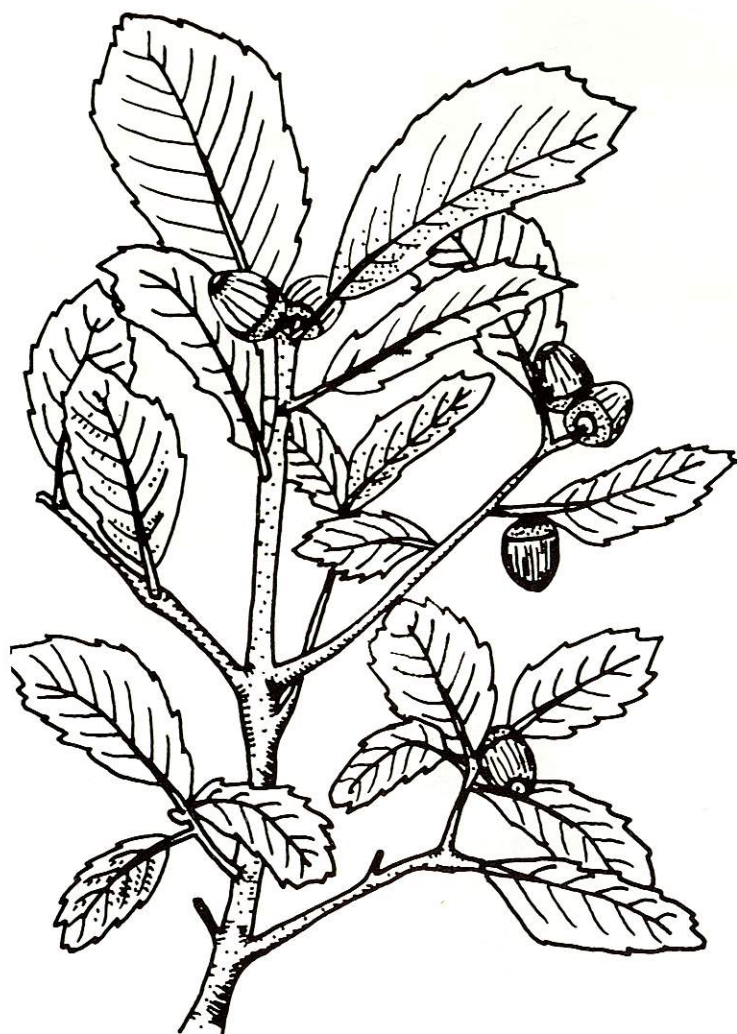


特 別 企 画 展

福生の植物 〈林の植物〉

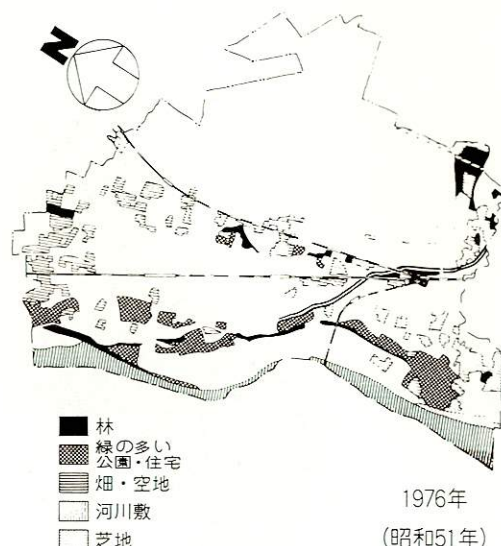
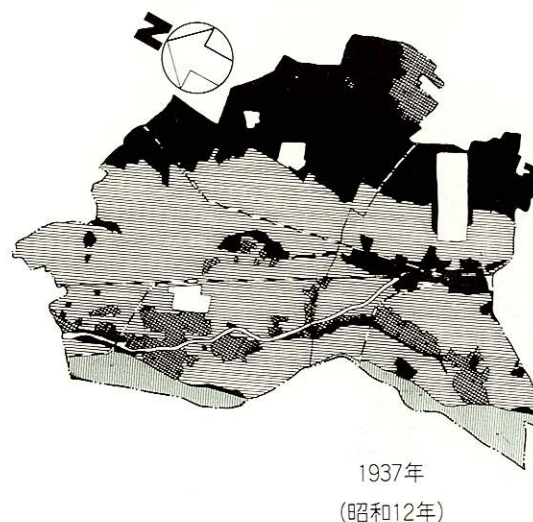


福生市郷土資料室

植物標本展

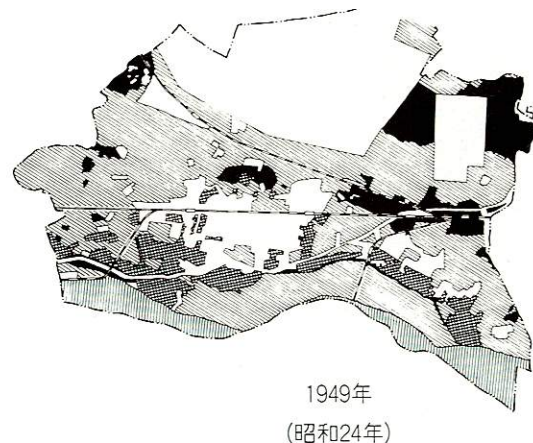
福生市の植物＜林の植物＞

福生市の林は第二次大戦後急激な減少の傾向をたどり、現在では全市域の4%を占めるにすぎません。この残された林はどのような樹木に



緑地の変遷

現在わたくしたちが目にして緑は、昔から同じ状態にあったわけではなく、長い歴史の中で、自然の力や人間の営為などの影響を受けながら変化し生じたものです。かつての福生は雑木林と畑によってその大半を占められていましたが、今から40年程前に大きな変貌を見せはじめました。基地建設のために雑木林は伐採され、人口急増に伴う開発の進行は同時に畑から宅地への転換を押し進めました。現在市内の緑地（林地、田、畑、河川敷、草地）はわずかに全市域の17%で、そのうち林については、国有地あるいは段丘崖の急傾斜地など開発ができない場所にあるわずか4%にすぎません。



よって構成され、どのような草花が見られるでしょうか。それぞれの林を特徴別に「コナラ・イヌシデ林」・「ケヤキ・ムクノキ・アラカシ・シロダモ林」に分け、さらに空間的配列から高木層、低木層、草木層、つる植物に分け紹介しましょう。

コナラ・イヌシデ林

コナラ・イヌシデ林は、コナラやクヌギを良質の炭として、またイヌシデやエゴノキを薪（燃料）として利用してきたので薪炭林と言われています。この林は市内では次の地区に見られます。

横田基地南側の林（A）

立川段丘上の平らな台地面に成立する平地林。

加美上水公園（G）、拝島駅北側林（B）、

玉川上水ぞいの盛土の上に成立する準平地林。

熊牛文化の森（C）

立川段丘崖という古い時代のハケで今で

＜高木層＞

コナラ

（ぶな科）

Quercus serrata Thumb.

4月に開花し10月に果実（どんぐり）をつくる落葉高木です。温帯から暖帯にかけての落葉広葉樹林に見られる代表的樹種で、薪炭用材としてすぐれ、建築材、器具材としての利用度も高いので、平地から山地まで全国的に育成されています。市内の雑木林は主にこのコナラを中心に構成されています。



クヌギ

（ぶな科）

Quercus acutissima Carr.

5月に開花し翌年の10月に果実（どんぐり）をつくりまします。暖帯に広く分布しますが自然林はごく少数です。コナラと同じく薪炭用材としてすぐれているので、平地から山地まで全国的に植林されています。市内ではコナラ林内に散生的に混生しています。



は崖斜面が緩やかになったところに成立する傾斜林。

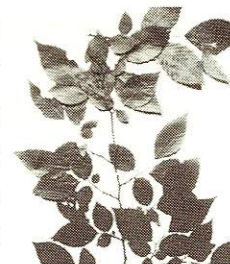
この林は、炭や薪の原料をとるために、適当な太さに成長した木を小面積づつ何年もくりかえし伐り出してきましたが、すぐに新しい芽を出すので萌芽林（ぼうがりん）とも言われています。このように人為的に作られ利用されていた林だけに、戦前までは手入れがよくおこなわれ、落葉は掃き集めて堆肥にし、小枝や低木は薪として伐り出していました。現在では薪炭林としての役目を終えており、昭和30年頃から放置されているため、いろいろな樹木や草が茂り自然林のようになっています。

イヌシデ

（かばのき科）

Carpinus tschonoskii Maxim.

5月に開花し10月に種子をつくりまします。温帯南部から暖帯に広く分布する落葉広葉樹林の代表的樹種で、器具材、薪炭用材として利用されるため全国的に育成されていますが、市内のコナラ林ではイヌシデの高木がかなり多く混生しています。

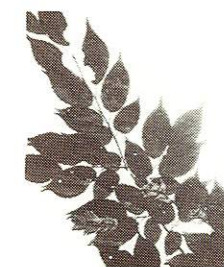


アカシデ

（かばのき科）

Carpinus laxiflora Blume.

5月に開花し10月に種子をつくりまします。温帯から暖帯にかけての落葉広葉樹林の代表樹種で、器具材、薪炭材として利用され、主に山地丘陵地で育成されています。市内では高木はまれですが、コナラ林内の低木層から亜高木層に多く成育しています。



エゴノキ

(えごのき科)

Styrax japonica Sieb. et Zucc.



5月に開花し10月に種子をつくります。温帯から暖帯に広く分布し、落葉広葉樹林に普通にみられる樹種です。主に薪炭材として利用され、平地から山地まで広く育成されています。市内ではコナラ林に低木層から亜高木層にかけて多く見られます。

ウワミズザクラ

(ばら科)

Prunus grayana Maxim.

4月に開花し6月に果実をつくります。温帯から暖帯にかけての落葉広葉樹林にみられますが、やや寒い地方や山地に多くみられます。建築材、器具材、彫刻材、薪炭材として利用されています。



市内ではコナラ林内に高木が散生的に混生しています。

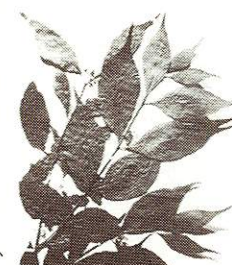
< 低木層 >

ムラサキシキブ

(くまつずら科)

Callicarpa japonica Thunb.

6月～7月に開花し10月～11月に紫色の果実をつける落葉低木です。温帯から暖帯に広く分布する低木層植物の代表種です。市内ではコナラ林の低木層に最も多く見られ、庭園樹としても植えられています。

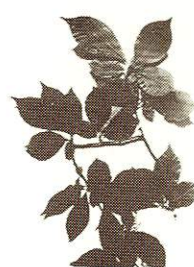


これとよく似たものにヤブムラサキがありますが、暖地系なため市内ではあまり見られません。

カマツカ

(ばら科)

Pourthiaea villosa Decaisne var. *laevis* Stapf



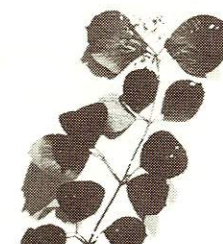
4月～5月に開花し、10月に赤い果実をつけまします。温帯から暖帯に広く分布する低木層、林縁植物の代表種です。材質が丈夫なことから鎌の柄などに利用されます。市内ではコナラ林の低木層に多く見られます。

ガマズミ

(すいかずら科)

Viburnum dilatatum Thunb.

5月～6月に開花し、8月に紅色の果実をつけます。温帯から暖帯に広く分布する植物です。市内ではコナラ林の低木層に多く見られます。また近縁にあたるコバノガマズミもまれに確認されます。



アオハダ

(もちのき科)

Ilex macropoda Miq.



温帯から暖帯に分布する植物で、5月～6月に開花し10月に種子がなります。落葉広葉樹林に普通にみられ器具材などに利用されます。また雑木林からは薪材として伐り出されます。市内ではコナラ林内に低木層として育っており、高木はないようです。

サワフタギ

(はいのき科)

Symplocos chinensis Druce var. *leucocarpa*

Ohwi form Pilosa

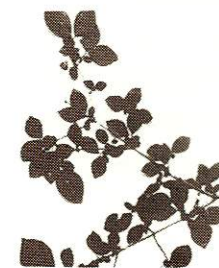


温帯から暖帯に分布する植物で、5月～6月に開花し10月に種子がなります。落葉広葉樹林に普通にみられ、器具材、薪炭材などに利用されています。市内のコナラ林の低木層に見られます。

ウグイスカグラ

(すいかずら科)

Lonicera gracilipes Miquel



温帯から暖帯に分布し、4月に開花、6月に赤色の果実をつけます。落葉広葉樹林の低木層や林縁植物の一種ですが、特に台地や丘陵地の雑木林に多く見られます。また庭園に植えられることもあります。市内ではコナラ林の低木層にやや普通に見られます。

< 草本層 >

ヤブラン

(ゆり科)

Liriope platyphylla Wang et Tang.



8月に開花し、花後もなく黒色の種子（果実のようにみえる）をつける常緑多年草です。暖帯の落葉広葉樹林からやや明るい常緑広葉樹林まで広い範囲の林床に生育します。市内でも広い範囲に生育し、個体数も多く見られます。

ジャノヒゲ

(ゆり科)

Ophiopogon japonicus Ker-Gawler

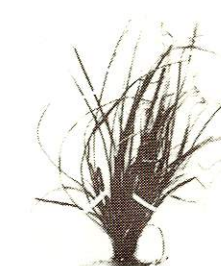


7月～8月に開花し、花後もなく濃い青色の種子をつけます。温帯から暖帯の落葉広葉樹林、常緑広葉樹林の林床に見られます。市内でも林に広く生育し、個体数も多く見られます。

ヒメカンスゲ

(かやつりぐさ科)

Carex conica Boatt.

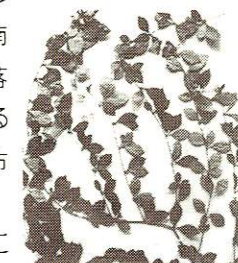


4月に開花し、6月に果実をつける常緑多年草です。温帯から暖帯の落葉広葉樹林の林床に生育します。市内でもコナラ林の中に多く見られます。

コウヤボウキ

(ぎく科)

Pertya scandens Sch-Bip.



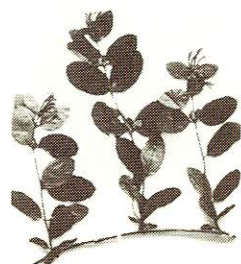
9月～10月に開花する落葉小低木です。温帯南部から暖帯にかけての落葉広葉樹林の林縁や明るい林床に生育します。市内ではコナラ林の林床、特にやや乾いたところに多く見られます。

< つる植物 >

スイカズラ

(すいかずら科)

Lonicera japonica Thunb.



5月～6月に開花する半落葉つる性低木です。温帯から暖帯のいろいろな森林の林縁に多く見られます。林縁では高いのびりますが、林床では地表をはって生育します。市内ではコナラ林の林床に多く見られます。明るい林縁でのみ開花します。

ツルウメモドキ

(にしきぎ科)

Celastrus orbiculatus Thunb.

5月に開花し、10月～11月に種子をつけます。温帯から暖帯に分布し、落葉広葉樹林の林内や林縁に生育します。成長すると数メートルに達します。秋の種子は黄赤色で美しく、生花によく使われます。市内のコナラ林では林床に多く見られ、高く伸びたものは少ないようです。

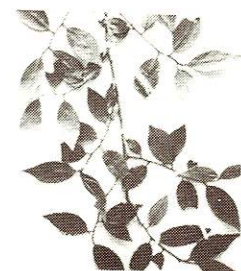


< それぞれの林に多くみられる植物 >

ツルグミ

(ぐみ科)

Elaeagnus glabra Thunb.



10月に開花し、翌年5月頃赤く熟す常緑つる性低木。暖帯のいろいろな森林の林内や林縁に生育し、幹は硬く丈夫で長く伸びています。市内では少ない暖地系植物ですが、加美緑地には比較的多く見られます。

ヤブソテツ

(おした科)

Elaeagnus glabra Thunb.

温帯から暖帯に広く分布する暖地性シダです。人里近くの山林、竹林の林床や石垣の間などに生育しています。市内では加美上水公園に特に多くハケの林下にも見られます。



オクマワラビ

(おした科)

Dryopteris uniformis Makino.



温帯から暖帯に広く分布する暖地性シダです。低山地の山林のやや暗い湿った林床に生育します。市内では加美緑地に特に多く、ハケの林下にも多く見られます。

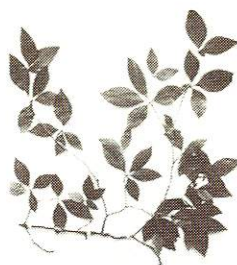
ヤマツツジ

(つつじ科)

Rhododendron obtusum Planchon var.

Kaempferi Wilson

5月に開花する半落葉低木です。温帯から暖帯にかけて、台地や山地の落葉広葉樹林の林内、林縁に見られます。市内では、熊牛文化の森の南側に特に多く見られます。



クマシデ

(かばのき科)

Carpinus Japonica Blume



5月に開花し、10月に種子をつくりまします。温帯南部から暖帯にかけて、丘陵や山地の谷すじの落葉広葉樹林に生育します。器具材、薪炭材などに利用されますが、特に育成することはありません。

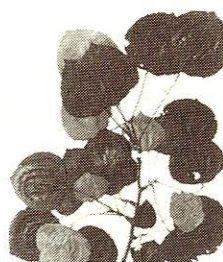
市内では拝島付近の林に多く見られますが、低木から亜高木まであります。

ヤマナラシ

(やなぎ科)

Populus sieboldii Miquel

3月～4月、葉の出る前に穂状の花を開きます。雌雄異株で温帯から暖帯に広く分布し、山地の裸地になったようなところに生育します。器具材、彫刻材、履物材、火薬用木炭、マッチの軸木などに用いられます。市内では拝島付近の林の一部に植林されていますが、ほとんどが雄株です。

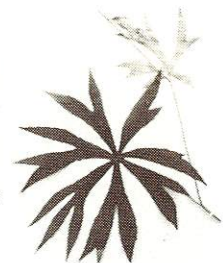


ヤブレガサ

(きく科)

Syneilesis palmata Maxim.

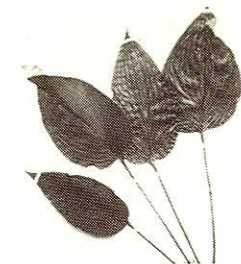
7月に開花する落葉多年草です。温帯から暖帯にかけて、低山地や丘陵地の傾斜地の落葉広葉樹林下に生育します。新葉の出はじめの頃は独得な葉の形をしています。市内では、拝島駅北側林の林床にやや多く見られます。



オオバギボウシ

(ゆり科)

Hosta Sieboldiana Englar var. *gigantea* Kita.



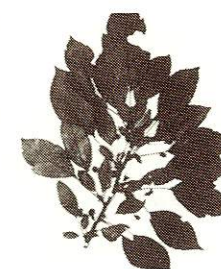
7月に開花する落葉多年草で、温帯から暖帯北部の山地の草原が主な生育地ですが、暖帯では落葉広葉樹林に生育します。市内では拝島駅北側林の林床にやや多く見られます。

ズミ

(ばら科)

Malus sieboldii Rehder

4月～5月に開花し、7月に赤い小さなリンゴのような果実をつけます。温帯の日あたりのよいやや湿った山野に生育します。市内では加美上水公園の段丘崖ぞいに数株、七小裏のハケに1株確認されています。分布上残り少ない貴重な植物です。



ケヤキ・ムクノキ・アラカシ・シロダモ林

ケヤキ・ムクノキ・アラカシ・シロダモ林は、市内では福生七小裏（F）、熊川神社下（E）、福生五小裏（D）に見られる林が代表的で、いずれも拝島段丘崖という比較的新しい時代にできた急斜面に成立する林です。

この林は、拝島段丘崖にそって帯状につづいており、崖の表面は上部が拝島礫層、下部が加住礫層の断面で、一部は露出したり上から落ちてきた土でうすく被われていますが、台地上のように土壌はつくられていません。そのためコナラ・イヌシデ林には見られなかった植物や、

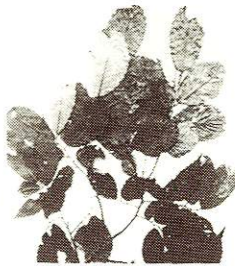
あまり目立たなかった植物が生育しています。礫質の急斜面でも根をしっかりと張って育つことのできる樹木が特徴的で、福生市内では最も自然林らしい植生をもっています。また、崖くずれをおこしやすいところなので生産的な利用はできません。

林のつくりは、ケヤキやムクノキの大木が高くそびえ、その下にアラカシやシロダモがならんでいます。冬にみると上が落葉広葉樹の層、下が常緑広葉樹の層という二段構成になっているのがよくわかります。草本層は林下が暗すぎて発達していません。

ケヤキ (にれ科)

Zelkova serrata Makino

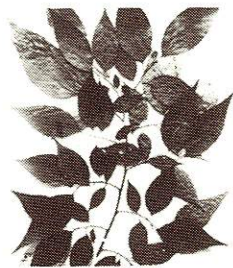
4月～5月頃に開花し、10月頃種子に熟します。温帯から暖帯に広く分布し、各地に植えられています。建築材、器具材、土木用材、船舶材、車輛材などに用いられます。市内では、ハケの斜面やハケに近い台地上に多く見られます。



ムクノキ (にれ科)

Aphananthe aspera planch

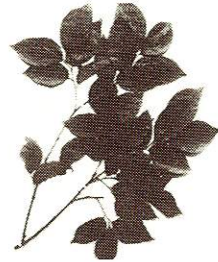
5月に開花し、10月頃種子に熟します。暖帯の傾斜地の下部などやや湿り気と深い土壌のあるところによく育ちます。建築材、器具材などに利用されますが、特に育成することはなく自然に生えるにまかせています。市内における暖地系落葉大高木の代表で、ハケの斜面に多く見られます。



エノキ (にれ科)

Celtis sinensis Pers. var japonica Nakai.

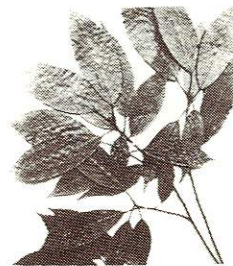
4月～5月に開花し、10月頃種子に熟します。温帯南部から暖帯にかけて、沿海地では普通にみられますが、内陸では川ぞい谷ぞいに分布します。建築材、器具材、薪炭材として利用されますが、育成することはあまりありません。市内ではハケの斜面に見られますが、数は多くありません。



アラカシ (ぶな科)

Quercus glauca Thunb.

4月～5月に開花し、10月頃果実（どんぐり）になる常緑高木です。暖帯に広く分布し、照葉樹林のうちおもに山地のカシ林をつくります。よく萌芽するので薪炭材として利用します。市内ではハケの斜面で低木層、亜高木層に多く見られます。



シロダモ (くすのき科)

Neolitsea sericea Koidz.

10月に開花し、翌年の11月に赤い果実を作ります。暖帯に広く分布し、やや湿り気のある緩斜面に多く見られます。薪炭材として利用する他に、種子は燈油や蠟の原料となります。市内ではハケの斜面に見られます。暖地の照葉樹林にはくすのき科の高木（タブノキ、カゴノキ、ヤブニツケイなど）が多く見られますが、市内ではこれ一種のみです。

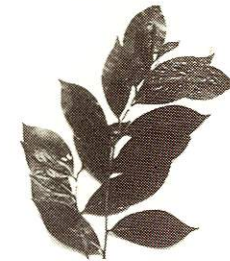


< 低木層 >

ヤブツバキ (つばき科)

Camellia japonica Linn.

3月～4月に開花し、10月～11月に種子に熟す常緑中高木です。暖帯に広く分布し、暗い林下でもよく育ちます。器具材などにも利用しますが、おもに種子から椿油をとるために植栽されます。市内ではハケの斜面の一部に群生しています。



ヒサカキ (つばき科)

Eurya japonica Thunb.

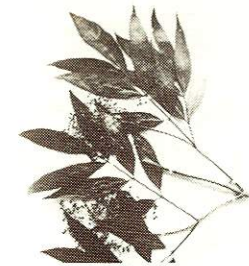
3月～4月に開花し、11月頃種子に熟します。暖帯に広く分布し、いろいろな森林の低木層によく育ちます。枝葉は神前に供えることでよく知られています。市内ではハケの斜面の低木層に多く見られます。



ニワトコ (すいかずら科)

Sambucus sieboldiana Blume, ex Graebn

4月に開花し、6月～7月に種子に熟す落葉大形低木です。温帯から暖帯にかけて分布し、日あたりのよい疎林や斜面林下部の林縁に生育します。小細工用材として、また茎の髓は生物実験用として利用されています。市内ではハケ下の明るいところに自生しています。

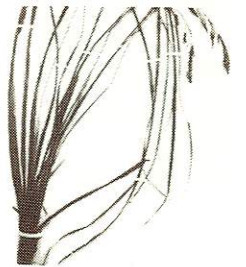


< 草本層 >

カンスゲ (かやつりぐさ科)

Carex Morrowii Boott.

4月～5月に開花する常緑多年草です。温帯から暖帯にかけて分布し、うす暗い谷間の崖斜面や川ぞいの斜面林の下に生育します。市内では五小裏拝島段丘崖斜面の一部に群生しています。



イノデ (おした科)

Polystichum polyblepharum Pr.

1メートル前後の大形の葉を束生する常緑性草本です。暖帯の平地から低山地の林下でやや暗いところに生育する。市内では五小裏の拝島段丘崖に確認されますが、貴重な暖地系シダといえます。



ベニシダ

(おした科)

Dryopteris erythrosora O. Ktze.

5月頃新葉を出し始め、朱紅色を呈する常緑性草本です。暖帯に分布し、低山地の落葉広葉樹林下や常緑樹林のやや明るいところに生育します。市内では段丘崖林下のやや明るいところに多く見られます。

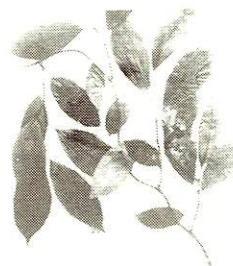


< つる植物 >

ピナンカズラ(サネカズラ) (まつぶさ科)

Kadsura japonica Dural.

8月に開花し、10月～11月に赤い果実をつける常緑つる性低木です。暖帯から亜熱帯にかけて、いろいろな森林の林下、林縁、低木林に生育します。市内では段丘崖林下のやや明るいところに群生しています。昔は、木部に含まれる樹液を整髪用の油としていました。



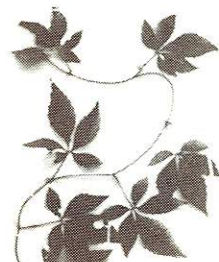
昔は、木部に含まれる樹液を整髪用の油としていました。

アマチャヅル

(うり科)

Gynostemma pentaphyllum Makino

8月～9月に開花する落葉つる性多年草です。温帯、暖帯から熱帯まで広く分布し、湿り気の多い疎林または林縁に生育します。市内では段丘崖斜面下端の林縁に多く見られます。



森林の階層構造

森林はいろいろな植物が集まって一つにまとまった群落です。これらの植物は性質によって、高木のびるもの(高木層)、低くしかのびないもの(低木層)、地表近くで生活するもの(地表植物)に分けられ、それらが森林という空間の中で互いにすみ分けています。

高木層……森林の上の方で葉を広げる。

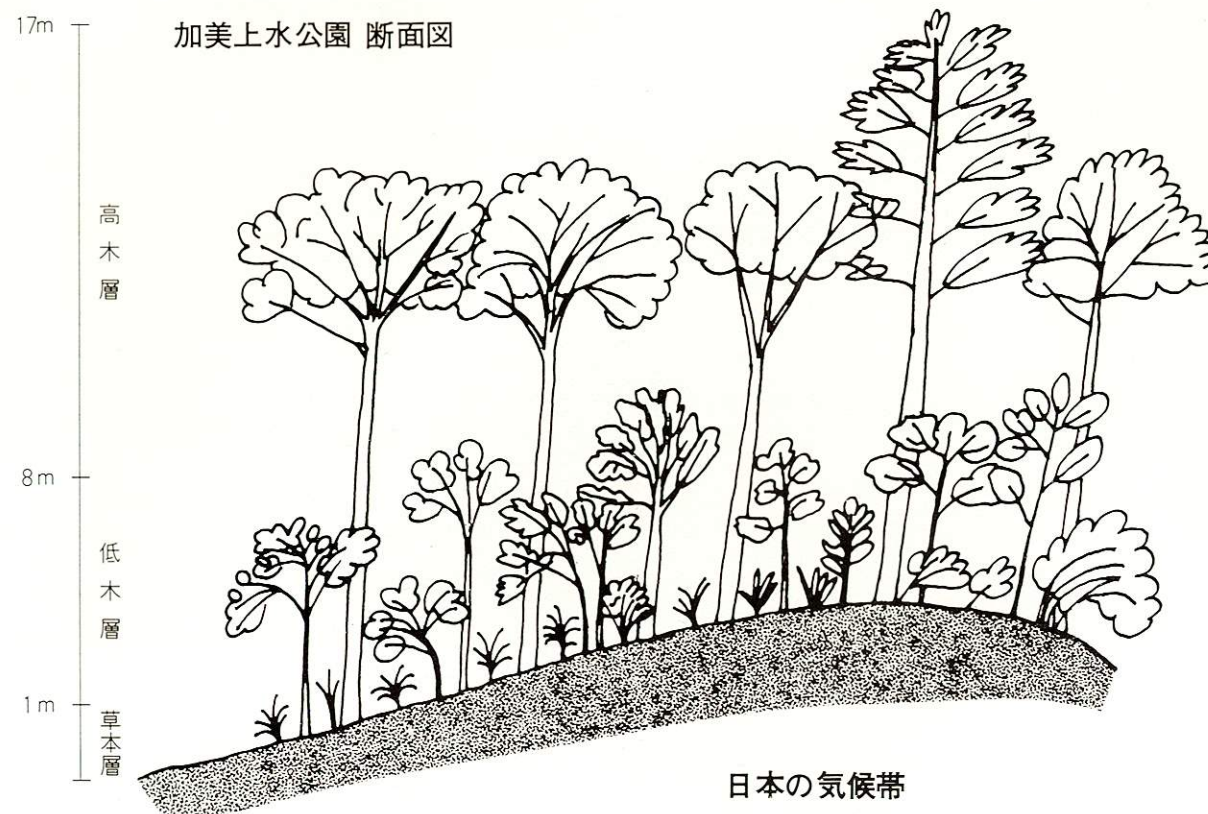
低木層……森林内部の中間で葉を広げる。

草本層……森林の地表近くで葉を広げる。

コケ層……地表面にくっついて葉を広げる。

発達した森林ではこの関係は安定していますが、発達途中の森林では各層が入りこんでいてはっきりしません。

加美上水公園 断面図



日本の気候帯

日本の気候帯



植物群落の分布は気候条件、日本では主に温度によっておおよそが規定されます。年平均気温13℃～20℃付近は暖帯で、冬も比較的暖かく常緑広葉樹のシイ、タブ、カシなどが森林をつくります(常緑広葉樹林帯または照葉樹林帯)。年平均気温5℃～13℃付近は温帯で冬の寒さがきびしく、落葉広葉樹林のブナ、ミズナラ、コナラなどが森林をつくります(落葉広葉樹林帯)。温帯のうち北海道の大部分は本州の落葉樹林帯と樹種が少し異なり、特に中央部から東北部にかけてはエゾマツ、トドマツなどの針葉樹を混生して、亜寒帯要素のまじった針広混交林帯をなしています。

と き・昭和59年7月25日から9月19日まで
ところ・福生市郷土資料室 2階展示室
主 催・福生市教育委員会，郷土資料室